

## 1 みはらしの丘 あいさい広場

徳島市内から国道55号線を南に進み、赤石トンネルを抜けるとすぐに右手の小高い丘の上にあるのが四国最大級の産直市「みはらしの丘あいさい広場」です。広く明るい店内に1年を通して新鮮で安全・安心な商品が多く取り揃えられたここは、まさに人が集まる大型フードステーション。あなたもぜひお越しください。きっとファンになりますよ。

- 住所／徳島県小松島市立江町炭屋ヶ谷47-3 (赤石トンネルを南に抜けてすぐ右)
- 営業時間／8:30～17:30 ●定休日／年中無休(年末・年始除く)
- 電話／0885-38-0112



## 2 小松島漁協 魚市場 とれびち市 毎週土曜日8:00～9:30

小松島漁協には、一般客が気軽に利用できる魚市場があります。午前8時ごろからスタートするセリでは、とれたての魚介類が並び、セリ落とされた魚を誰でも安く手に入れることが可能。地元はもちろん、県外からも多くの人々が訪れます。季節の鮮魚をはじめエビやカニなど、紀伊水道に育まれた海の幸で、今日の食卓を彩ってください。

### 小松島漁業協同組合

- 住所／徳島県小松島市南小松島町1-15
- 営業時間／8:30～12:00 ●定休日／毎週日曜日・祝日(魚市場は水曜[月2回]休み)
- 運営／小松島漁業協同組合
- 電話／0885-33-1122 ●FAX／0885-33-2011／0120-4649-42



## 3 和田島漁協直営 ちりめんの店

「ちりめんの店」は漁協に併設されたアンテナショップ。ちりめんは、紀伊水道の美しい海で獲れたイワシの稚魚(ちぎよ)をすばやくボイルし、乾燥させた天然の健康食品です。なかでも「和田島ちりめん」は全国的に有名で、単一漁協として全国一の水揚げ高を誇っています。和田島漁協直営店ならではの新鮮なちりめんを誰でも買い求めることができ、電話注文やインターネットでの販売も行っています。

### 和田島漁協直営 ちりめんの店

- 住所／徳島県小松島市和田島町字西浜手10-33(和田島漁協内)
- 営業時間／9:00～17:00 ●定休日／毎週日曜日・祝日
- 電話／0885-37-1621／0120-4147-52



## 4 NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま みなと活々産直市

古くは港町として栄えた歴史を持つ小松島市。そのフェリー乗り場跡につくられたのが「みなと活々産直市」です。そのモットーは「交流の場をつくる」ことと「本当にいいものを届ける」こと。毎日、収穫したての農産物や小松島ならではの加工品が勢揃いし、地元の人々の明るい笑顔が絶えません。人のあったかさが渦巻く、市民自慢のスポットです。

### NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま みなと活々産直市

- 住所／徳島県小松島市小松島町字新港19 ●営業時間／9:00～16:00
- 定休日／毎週木曜日・年末年始
- 電話／0885-33-0302



## 🚆 JR

徳島駅	… 南小松島駅間	約25分
高松駅	… 南小松島駅間	約2時間
高知駅	… 南小松島駅間	約3時間30分
松山駅	… 南小松島駅間	約4時間30分

## ✈️ 空路

東京(羽田空港)	… 徳島阿波おどり空港	約1時間10分
福岡(福岡空港)	… 徳島阿波おどり空港	約1時間40分
札幌(新千歳空港)	… 徳島阿波おどり空港	約2時間(季節運行/夏季)

※徳島阿波踊り空港からJR徳島駅までバスで約35分、JR徳島駅からJRまたはバスで約25分

## 🚌 高速バス

東京	… 徳島	約9時間
神戸	… 徳島	約1時間50分
高松	… 徳島	約1時間30分
松山	… 徳島	約3時間
高知	… 徳島	約3時間
大阪	… 徳島	約2時間30分

※小松島までJR徳島駅からJRまたはバスで約25分

## 🚗 自動車

高松中央IC	… 鳴門IC(高松自動車道)徳島市街	約1時間
松山IC	… 徳島IC(徳島自動車道)徳島市街	約3時間
高知IC	… 徳島IC(徳島自動車道)徳島市街	約2時間30分
神戸西IC	… 鳴門IC(神戸淡路鳴門自動車道)徳島市街	約1時間40分

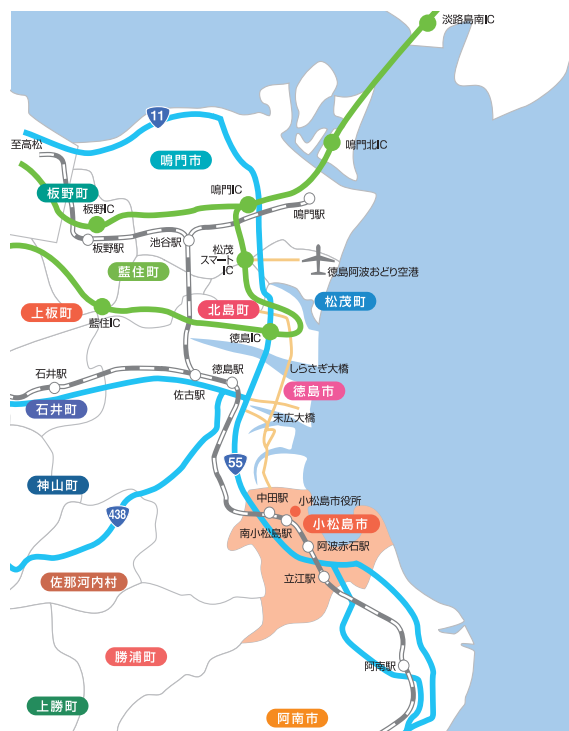
※小松島まで鳴門ICから車で約50分、徳島ICから車で約25分

## こまつしまブランド戦略推進協議会

お問い合わせ／小松島市産業振興課

〒773-8501 徳島県小松島市横須町1番1号  
 [TEL] 0885-32-3809 [FAX] 0885-33-0938  
 [E-mail] sangyoshinko@city.komatsushima.i-tokushima.jp  
 [HP] https://www.city.komatsushima.tokushima.jp/

## 小松島 アクセス MAP



## KOMATSUSHIMA PILGRIMAGE MAP

# こまつしま 人んろ道 マップ





# KOMATSUSHIMA PILGRIMAGE MAP

## こまっしま へんろ道 マップ



- (A) 土佐街道
- (B) 恩山寺道
- (C) 恩山寺道・小松島港上陸ルート
- (D) 恩山寺道・赤石港上陸ルート
- (E) 恩山寺道・江田～中田ルート
- (F) 立江寺道
- (G) 立江寺道・赤石港上陸ルート



## 土佐街道 TOSA KAIDO

(A) ●土佐街道→●日開野の一里松跡→●加々ませの接待所跡→●千羽ヶ嶽→●お京塚→●白鷺橋→●立江寺→  
→●羽ノ浦(阿南市)

土佐街道は江戸時代に藩により整備された阿波五街道(讃岐・伊予・土佐・淡路・撫養)の一つ。難所の多いルートでしたが土佐(現・高知県)へと向かう道として多くの人に利用されました。小松島では勝浦川を前原の渡りで渡り、前原・日開野・芝生・田野・立江と通り羽ノ浦(阿南市)へ抜けました。あまり正確ではなかったようですが1里ごとに植えられた一里松が小松島では日開野と田野にありました。

## 恩山寺道 ONZANJI MICHI

(B) ●土佐街道→●丁石→●遍路墓→●仁王門→●恩山寺ピランジュ→●恩山寺

土佐街道との分岐点には、恩山寺の略記や生島家による相輪標、中務茂兵衛の道標などがあり、恩山寺谷を登っていきます。民宿ちばの前から史跡指定された古道に入ると丁石や遍路墓があり仁王門へと続きます。恩山寺ピランジュを抜け山沿いに進むと階段がありその後は雲気の良い登り坂です。

### 小松島港上陸ルート

(C) ●旧小松島港→●地藏寺→●道標→●細い路地→●お杖の水→●加々ませの接待所跡→●(A)→●(B)→●恩山寺

現・中央会館から地藏寺を通り、照蓮の道標がある十字路を西へ。進んでいくと左手に踏み切りが見える十字路を左に曲がります。しばらく進むと右側に小さな路地があり地藏と生島家による道標があり遍路道だとわかります。日開野町に入りお杖の水を通り、加々ませの接待所で土佐街道へ合流します。

### 赤石港上陸ルート

(D) ●旧赤石港→●道標→●八大竜王神社→●地藏→●(A)→  
→●(B)→●恩山寺

赤石の鉄道橋をのぞむビューポイントに立江村講による恩山寺への道標があります。県道田野勢合線を進み、はやり橋を渡り左に折れると八大竜王神社があります。国道55号線の高架をくぐり、道なりに進んでいくと光背の模様が変わっている地藏があります。

### 江田～中田ルート

(E) ●江田の渡し→●中田町→●神代橋→●松島町→●(C)→●恩山寺

現在の江田の潜水橋から堤防を通り江田の町へ下りていくと照蓮の道標が残っています。生島家の石造物が残る宝聚寺を左手に見ながら中田町に。旧道を進んで行く先が欠損した生島家による道標が残っています。さらに中田八幡神社の参道を横目に進み、神田瀬川に一番古くから架かっていた神代橋(勾玉があらわれている)を渡って松島町へ。橋の袂の常夜灯付近には生島馬之助の銘のある石造物が残っています。

## 立江寺道 TATSUEJI MICHI

(F) ●恩山寺→●道標→●板碑→●弦巻坂→●弦張坂→●釈迦庵→  
→●政所谷川堤防→●石橋→●(A)→●立江寺

恩山寺道最後の石段手前にある照蓮の道標は道と思えない方向を指さしています。迷わず指し示す方向に進むと石造物群があり、中には板碑や花崗岩製の一石五輪塔が含まれています。恩山寺谷におり、再び花折れ地藏のある弦巻坂を通してしばらく進むと三叉路ではない場所に道標があります。以前は里道の三叉路であった名残です。弦張坂を下り釈迦庵を抜けると政所谷です。田園のなかの石積みの遍路道を通り、川の堤防上を進むと花崗岩製の一石五輪塔と道標が正面に。石橋を渡って土佐街道へ合流します。

### 赤石港上陸ルート

(G) ●旧赤石港→●道標→●道標→●道標→●立江寺

立江川を右手に進むと照蓮の道標があります。国道55号線を渡ったところに照蓮の道標が再びあり、立江町へと入っていきます。



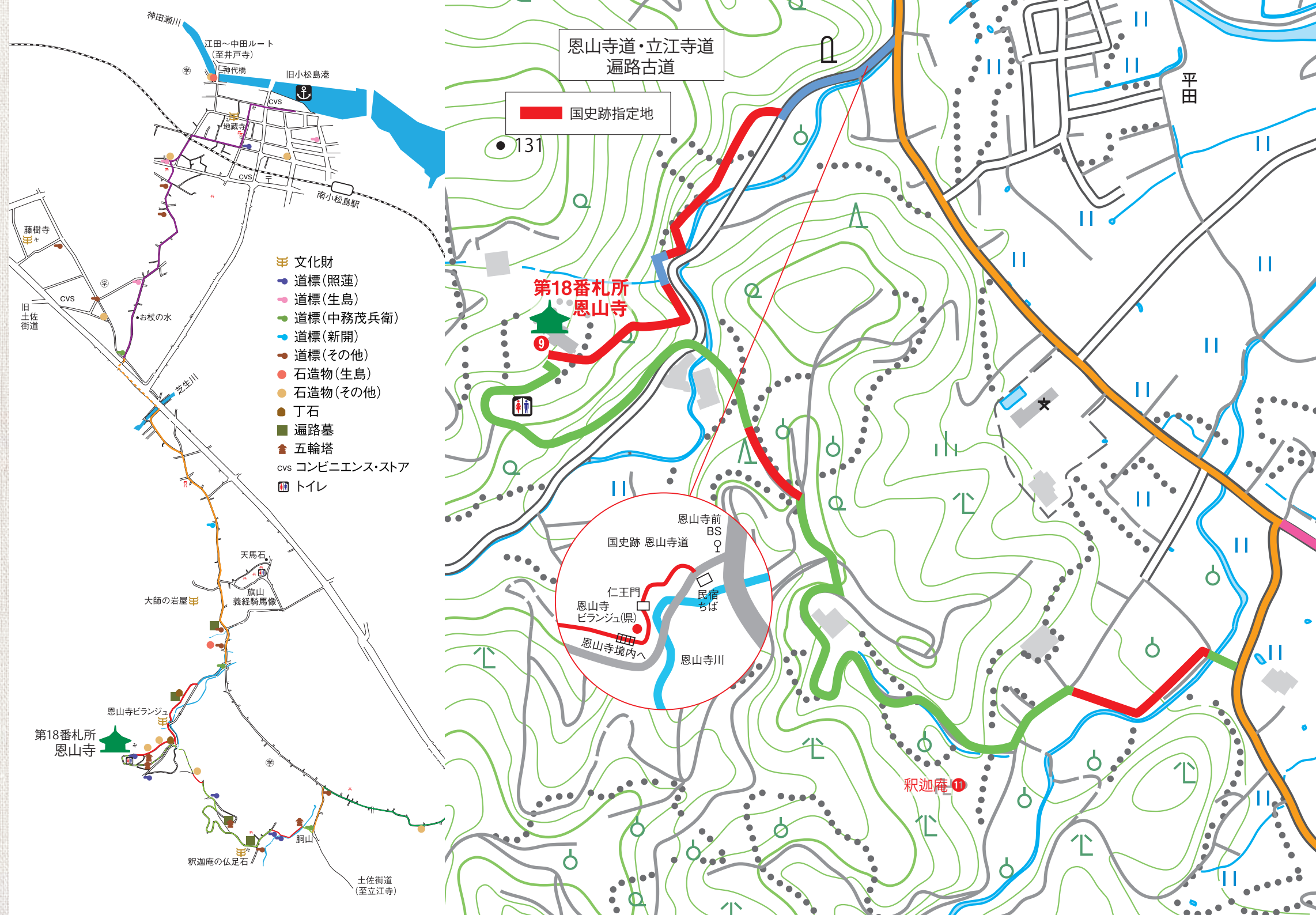


# 恩山寺道

ONZANJI MICHI

## 自然と文化に彩られた 歴史の中を歩く

恩山寺道は、17番井戸寺（徳島県国府町）から18番恩山寺（小松島市田野町）を結ぶ遍路道です。総距離は18km。井戸寺から八幡街道、伊予街道を通り、徳島城下町経由で土佐街道に入るルートと眉山を左手に見ながら地藏越えやあずり越えなどの峠を経由するルートに分かれていました。徳島市の地藏橋からの江田の渡し（現・小松島市江田町潜水橋付近）で勝浦川を渡り、中田村（現・小松島市中田町）を経由するルートも存在するなど、その時代や条件に応じて遍路道として利用されていたようです。また、港町小松島の特徴として船で小松島港や赤石港に入り、恩山寺から遍路を始めるルートも現存する道標などから確認されています。平成28年6月には主要ルートである土佐街道から離れ、恩山寺に向う間の約400mが国の史跡に指定されました。周辺には県指定天然記念物「恩山寺ピランジュ」の巨樹がそびえるなど、豊かな自然と文化に彩られた歴史を現在に伝える古道が残っています。





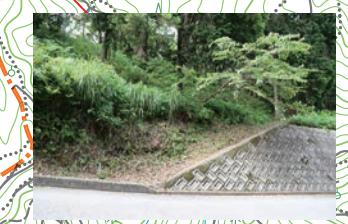


# 立江寺道

TATSUEJI MICH

## 義経や空海に 思いを馳せながら

立江寺道は、18番恩山寺(小松島市田野町)から19番恩山寺(小松島市立江町)を結ぶ遍路道で、距離は約4kmです。恩山寺から土佐街道に合流するまでの約500mが国史跡に指定されています。恩山寺道沿いの照蓮の道標から始まるこの区間は、中世期まで遡る板碑や五輪塔などの石造物が散見でき、義経の上陸伝承がのこる「弦巻坂」、「弦張坂」などもあり、遍路道として利用される以前の古道だとわかります。竹林や政所谷川の堤防上を歩き里山景観を満喫できるルートでもあり、空海所縁の釈迦庵などを通り土佐街道に合流します。そこから緩やかな田中山を過ぎ、お京塚を通り、白鷺橋を渡って立江寺の門前町へと入って行きます。他には船で赤石港に入り立江寺へ向かうルート上には照蓮の道標が残っています。





# 恩山寺道・立江寺道と周辺の立ち寄りポイント

## ① 旧小松島港



かつては阪神方面から船で小松島に入り、恩山寺や立江寺から遍路を開始するルートがありました。現在の小松島港(新港)ができるまでは、神田瀬川河口付近に船が着いており、古くは現在の中央会館の裏あたりであったといわれています。松島町の西端には文政9(1826)年の照蓮の道標が残っており、恩山寺に向うルート上には生島家による道標が残っています。



## ② 郷町小松島

小松島は古くは勝浦川上流域で採れた木材の集散地として鎌倉時代後期の古文書にその名がみえます。ただ、郷町(在郷町)として発展していくのは元禄年間(1688~1704)以降で中町・北町・西町・新町(現在の松島町)には藍商が屋敷を構えました。(郷町とは江戸時代に城下町の外に形成された交通の要所や流通拠点をさします。)小松島の藍商は関東へ進出し、関東の藍問屋を通さない藍の直売などで成功していきました。



## ③ 地藏寺

松島町に所在する真言宗大覚寺派の寺院です。平島公方の館を移設したとされる玄関及び書院や所蔵する胎藏界曼荼羅図が県指定文化財に、隣接する寶珠院は国の登録有形文化財となっています。道標などを建立した生島家のその篤信と善行の発端となった場所でもあり、多宝塔や振袖地藏を建立しています。



## ④ お杖の水

旅僧がとある農家で水を所望しましたが、「このあたりの井戸水は塩がさして飲めない」と嘘をついて断ったところ、この後、本当に塩が入り飲めなくなりました。実は、この僧は弘法大師だったので。それから数年たって、またこの旅僧が通りかかった際、この周辺の人や旅のものが塩辛い水に困っていたので、杖で土地を衝くとたちまちに清水が噴水の様に噴出したといわれています。

## ⑤ 加々ませの接待所



旧小松島港からのルートと土佐街道が交差する地点。昭和の初め頃まで、小松島の郷町の人々が、餅やおへぎなどをお遍路さんに差し上げ、御札をもらって接待しました。御札は縄につけ町内の軒先にしめ縄の様にひいて安全を祈願しました。



## ⑥ 旗山と天馬石

平家追討の際に源義経が白旗を掲げて士気を高めたとの伝説が残る場所です。天馬石は旗山のたもとにある石で、天馬が天下って石になったとも、名馬・磨墨が石になったともいわれています。文化11(1814)年の『阿波名所図会』にも紹介されており、踏むとお腹が痛くなるといわれています。

## ⑦ 大師の岩屋(弁慶の岩屋古墳)



古墳時代終末期に築造された県下でも有数の規模を誇る横穴式石室の古墳(県指定史跡)で墳丘土が流失し石室が露頭しています。明治期には『大師の岩屋・火の岩屋・御殿石棺(カロト)』などと、大正期には『平家窟』と呼ばれ、義経の上陸伝承に因んだ『弁慶の岩屋』と呼ばれるのは昭和になってからともいわれています。



## ⑧ 千羽ヶ嶽 お豊とお君の墓

崖の中腹に2つの墓があります。昔、貧しい家の後妻には、先妻の子お豊と実子お君がいました。お豊を邪魔に思った女は暮らしの貧困を言い訳に崖上より突き落とすことを計画しました。お豊を荒フゴに入れ突き落とし、お君は真綿で包み助かる様になりましたが、お君のみが亡くなりました。嘆き悲しんだ女は改心しましたが、まもなくお豊も亡くなりました。

四国遍礼霊場記



## ⑨ 第18番札所 恩山寺

母養山宝樹院恩山寺は聖武天皇の勅願による行基の創建とも弘法大師の創建ともいわれ、文保2年(1318)源空により再興されたと伝わっています。戦国時代には長宗我部元親の兵火により焼失したとされ、江戸時代に、徳島藩主蜂須賀至鎮が堂地と山の一町四方を寄進、本堂も藩主の援助で再建されました。空海の母、玉依姫の伝承が残り、弘法大師と御母公にまつわる縁起で信仰を集めています。



## ⑩ 釈迦庵

恩山寺の年老いた僧が生活したお庵ともいわれています。県内では最古の「仏足石」(市指定文化財)や池庭などがあります。以前は、弘法大師がむつき(おむつ)を納めたとされる「むつき堂」があり、また、仏足石周辺に生えていた夜泣き柴は子供の夜泣きがおさまるとして、四国巡礼のお土産として有名でした。県指定文化財の両界曼荼羅図も元々は釈迦庵に納められていました。



## ⑪ お京塚

石見国(島根県)で生まれたお京は結婚しましたが、若い男と不倫をし、夫を殺害してしまいます。2人逃亡し、遍路となり巡礼を始めます。立江寺本堂前に立ったとき、お京の髪が逆立ち、鉦の緒に巻き上げられ、二人が仏前に懺悔するとお京の髪もろとも肉がはげ、鉦の緒に残りました。二人は悔悛しお庵をこの地に結んだとされます。髪は立江寺の黒髪堂で見ることが出来ます。

四国遍礼霊場記



## ⑫ 第19番札所 立江寺

橋池山摩尼院立江寺(立江町若松)は建立の際、飛来した白鷺が堂地を示したといわれています。当初は現在地の西に伽藍があったとされ、長宗我部氏の兵火に罹り焼失したと伝わっています。江戸時代になり蜂須賀家政により現在地に再興されました。阿波の関所寺とされ、お京伝説「肉付き鐘の緒」が残っています。元々は地藏寺と号していましたが、立江寺と改名されました。県指定両界曼荼羅図の金剛界曼荼羅図の裏書(寛政十一戊午(1799)冬)に浄財施主連名のひとつとして立江邑地藏寺の名が見えます。

## ⑬ 白鷺橋



立江寺の縁起にある白鷺が舞い降りた橋といわれています。悪人はこの橋の上に立つと目がくらみ、足がすくみ渡ることができず、白鷺が舞い降りて橋の上に立っているといわれています。橋を無事渡ることが出来たものは善男善女とされ、立江寺が関所寺とされるのもこの橋に由来するとされています。



## ⑭ 旧赤石港

赤石を見渡す勢合の山腹から弥生時代中期の銅鐸が出土しており、古くからの海上交通の要衝であったことが窺えます。また「日本書紀」にある海人の男狹磯の記述には「赤石」の地名(明石が有力)が記載されています。明和年間(1764~1772)に常盤新田が開発され、赤石付近が立江川下流の入り江となり、県内各地や阪神方面への船が入り出したといわれており、入船という地名も残っています。恩山寺や立江寺へ向うルートには道標が現存しています。



## 道標 (どうひょう・みちしるべ)

道標とは道の分岐点に建つ道案内のための標識のことです。歩き遍路が四国をまわる様になってから数多くの道標が建てられました。指で方向を指し示すものの中には腕の袂に振袖がデザインされたものも見られます。



### ◀中務茂兵衛の道標

明治～大正のもので、中務茂兵衛は22歳から78歳まで、279度四国遍路を周り、88回目から道標を建立しました。現在、約240基が確認されています。



### ◀生島氏の道標

明治以降のもので、小松島の豪商『わたや』の生島氏が建立したものです。生島馬之助・伊之五郎の銘がみられます。道標のほか、地藏・俱利伽羅地藏・相輪様など多くの石造物が小松島市を中心に徳島市・阿南市・勝浦町で確認されています。また遍路以外の日峯道などの道標も見られます。



### ▶新開氏の道標

地元の新開氏によるもので土佐街道芝生町にあります。新開氏はこの他にも恩山寺の西国三十三観音・石灯笼・花受・本堂への石段)にも銘が見えます。

### ◀照蓮の道標

江戸時代(文化期)のもので、「四国中千躰大師」と刻まれています。千基の道標の建立を目指しましたが、途中で挫折したようで阿波国を中心に72基が確認されています。



### ▶真念の道標

真念は四国遍路の祖と呼ばれる僧侶です。道標は江戸時代前期のもので200基程度を建てたされていますが、小松島では櫛漣町に3基が、全体で37基が確認されています。



### ▶遍路墓(へんろぼか)

遍路の道中で行き倒れて亡くなった人を村で弔い、遍路道沿いに墓を建てる習慣がありました。これが「遍路墓」です。墓石には遍路の戒名・没年月日・出身地・戒名などが刻まれ路傍に建てることで、同国人や知人に死を知らせる意味合いも果たしていたようです。恩山寺道には安永4(1775)年に亡くなった丹波国水上郡沼村(現在の兵庫県丹波市)の浄念(僧侶か)の墓などがあります。



### ▶丁石(ちようせき・ちよういし)

丁石は札所寺院までの距離を示したものです。恩山寺道では、文化6(1809)年に建立された舟形で中央に地藏を浮き彫りにしている舟形丁石があります。刻まれている距離は4丁(1丁は約109m)です。



## おいしい小松島

紀伊水道の豊かな漁場、中山間地域の肥沃な大地、そして人の情熱。小松島には、阿波の食文化を代表する「うまいもん」がいっぱいです。豊かな自然と人情に育まれたおいしさを、ぜひ味わってください。

### チリメン

5月上旬から8月が、シラス(イワシの稚魚)漁の最盛期。和田島漁協のバッチ網業者数は、単一漁協としては全国トップクラスを誇ります。それぞれの網元が漁獲から加工までを一貫生産し、新鮮なチリメンを市場に届けています。



### 竹ちくわ・フィッシュカツ

「竹ちくわ」は新鮮な魚のすり身を、竹に巻き付けて焼き上げたもので、源義経が小松島に上陸した際に食べたのが始まりとされています。また、ご当地B級グルメのフィッシュカツは、白身魚のすり身に香辛料を入れ、パン粉で揚げた練り食品です。



### 干しエビ

紀伊水道に面する小松島では、底引き網と呼ばれる漁が盛んに行われています。そこで漁獲されるサルボエビを乾燥させたものが「干しエビ」です。エビの旨味が凝縮されていて、おやつ代わりに食べるとやみつきになること間違いなしです。



### ハモ

徳島の夏の味覚を代表するハモ。小松島漁協では年間100トンが水揚げされているなど、国内有数の産地となっています。漁の最盛期は6月から10月。東京など関東圏の飲食店でも、小松島産の取扱店が増えてきたので、ぜひ一度ご賞味ください。

### オクラ

マグネシウムやカロチン、ビタミンC、ビタミンEなどを多く含む食材として人気の食材です。温暖な気候と肥沃な土壌に恵まれた小松島は、県下一の産地。一般のオクラよりも出荷が早い「早出し」を行っていることも特徴です。



### 菌床シイタケ

オガくずと栄養源などを混ぜて固めた菌床によって栽培。こだわりの管理体制が、品質の良いシイタケをコンスタントに生み出します。小松島は県内でも最大の出荷量を誇っており、肉厚で香りの良いシイタケを全国に届けています。



### ヤマモモ

徳島県や小松島市の木に指定されているヤマモモ。特の歯触りや甘酸っぱい味覚が特長で、小松島では街路樹にも用いられています。県内トップの生産量を誇り、最近では果実酒やジャム、ジュースなどの加工品も充実しています。



### 阿波牛

徳島県内で生産された、血統明確な黒毛和種が「阿波牛」です。上質のサシが入った阿波牛の旨味は折り紙付き。新鮮な空気ときれいな水に恵まれた小松島では、30カ月以上の月日をかけて品質の良い阿波牛を育てています。